

### 第3回

#### 「図書館とまちづくりワークショップ」

日時 : 平成28年11月5日(土) 14:00~17:00

場所 : 生駒市図書館 3階市民ホール

コーディネーター : 糸賀雅児教授

ファシリテーター・書記 : 各班に1人 (第1回、第2回に同じ)

参加者 : 19人 (A班6人/7人、B班6人/7人、C班7人/8人)

内容

A班、B班、C班に分かれてグループワーク

- ・前回を踏まえて、アイデアをまとめる
- ・「テーマ」「対象」「何をするか」「どんないいことがあるか」に分けてフリップに書く。
- ・各班プレゼンテーション(5分)
- 糸賀教授、市長、教育長から質疑応答(5分)

各賞発表とコメント

- ・オーディエンス賞(参加者、傍聴者、スタッフ職員全員の投票)
- ・ファシリテーター賞
- ・市長賞
- ・糸賀賞

【各班のフリップは別紙参照】

【要旨】

#### ◆A班③ オーディエンス賞

##### 「図書館でお茶会をしよう! 茶室をたてる」

生駒市の特産品である茶釜に着目し、お茶会を図書館施設で行う。

伝統産業を守るとともに、子どもたちの身近にお茶があり、おもてなしの心を持つ生駒となる。

茶釜やふるさと生駒全般に興味を持ったなら図書館資料で学ぶことができ、茶釜作りの話を聞いたり体験することはもちろん、地元の竹が手に入りにくくなったことを知れば、里山の自然を守る活動をされている方と交流するなど広くまちづくりに関わる。

#### ◆B班 ファシリテーター賞

##### 「本から飛び出せ!! ~リビングライブラリー~」

生きている(リビング)人間を本に見立てて、本を読むようにその経験や人生を聞く。

集った仲間と語り合い、いろんな興味が湧いてくると、図書館の本を利用し、詳しく調べることができる。「生きた本」から始まって、「紙の本」にたどりつく。

また、居間(リビングルーム)で語り合うようなゆったりとした居心地のいい場を目指す。

◆C班 市長賞、糸賀賞

「サロン de いこま ともだち 100人できるかな？」

高齢者を仕掛け人として、空家や空地、自治会館などの既存のサロンを活用し、ブックカフェ、青空読書会、ビブリオバトル高齢者大会開催などとともに、情報交換、趣味の仲間づくり、世代間交流等を行う。図書館までの来館が難しくなった高齢者が地域で身近に利用できるようなまちじゅう図書館で、元気になって100歳を目指す。

その他のアイデア

A班①

「図書館利用率100%を目指して」

高齢者、子育て中の人、障がいのある人などすべての人に、移動図書館の市内巡回や、高齢者や赤ちゃん訪問時に読書のおすすめをして、すべての人に読書の喜びを。また、本を生かして心豊かなまちづくりを。

A班②

「コンシェルジュのいる図書館」

図書館でコンシェルジュと話すことで、本の紹介のみならず癒しの空間とする。子育て世代、ストレス世代、第2の元気世代、障がいのある方などが、コンシェルジュに助けを求めて来られたら、出前司書、カウンセラー、おたすけ図書館、おしゃべり図書館として、「あなたに寄りそう図書館」となる。

A班④

「スペシャルネットワーク 学校は未来の生駒を救う」

生駒市内の保幼小中学校を対象として、たて（保幼～大人）とよこ（校種間）のつながりを図書館が作る。文化のかおりのする生駒市、さらにアカデミックな住みたくなる町になる。

A班⑤

「生駒には親切日本一図書館がある ～普通の図書館の深耕（利用者ファースト）～」

「親切日本一図書館」とは何かを徹底的に考え、利用者ファーストである「普通の図書館」の深耕が、街づくりの核を充実させることであり、結果として街づくりに結びつく。以上から、図書館の運営、人事、カウンター職員、広域ネットワーク、すべての本のリサイクル、ボランティア活動の拠点、静かな図書館とうるさい図書館の共存などを考える。街づくりの核として図書館がすばらしいものになれば、生駒には親切日本一図書館があることをセールスポイントとして、文教都市生駒を全国に知らせ、生駒を目指して移り住む人が出て欲しい。



A班



B班



C班



糸賀教授コメント



市長コメント

